

右造大輪田船瀬使所收勝載料雜物及所役水脚等每年四季造帳進官其來尙矣今檢彼帳直錄物
 色人數無顯其國船覆勘公文事理不愷被右大臣宣僞宜下符諸國每年令申與彼使帳相共計會仍
 須下知所部勘錄向京公私船數并勝載及挾抄姓名等每月附告朔郡司令申至于年終總計造帳附
 稅帳使言上不得疎略

承和五年三月廿三日

造泊用度

〔延喜式二十六〕凡勘租帳者略中船瀬功德田造船瀬料田並爲不輸租田

〔續日本紀四十二〕延曆八年十二月乙亥播磨國美囊郡大領正六位下韓鍛首廣富獻稻六万束於水兒
 船瀬授外從五位下十年十一月壬戌授播磨國人大初位下出雲臣人麻呂外從五位下以獻稻於

水兒船瀬也

名所

〔八雲御抄五〕泊

からことのとまり備清行海邊也からとまり筑前のこのからとの同上もつ

〔藻鹽草五〕泊

武庫泊攝州住吉のゑなづに立てみわた大伴御津泊同上松風月戀花衣みつ泊同又大泊同事

明石泊時雨唐琴泊緒すげて風ぞ引ける松けさからことには波の甕泊千船中御調物よもたふ

もかなひぬ鹽口無泊備後いひぬも竹泊めち雪ふりにけり石や泊人州ら草の庵何袖はぬれけり

能古泊ちのこのと風吹ばにおきつ白波かしこみ唐泊からとまり志摩郡ちながれし人のゆくそなはれ

ね日はあり共家に戀ぬ日はなし

攝津國
美津泊

〔萬葉集十五〕回來筑紫海路入京到播磨國家島之時作歌五首四略

大伴乃美津能等麻里爾布禰波氏多都多能山乎伊都可故延伊加武

六兒泊

〔萬葉集三〕高市連黑人歌一首